

(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.5-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前(165日まで)					
	これ以上改善の見込みはない				見込みがある 身体機能の改善の	無回答
	生活の場で 状態の維持が 可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険 対象	介護保険 対象外	無回答		
合計(N=182)	78	42	3	1	54	4
	42.9%	23.08%	1.7%	0.6%	29.7%	2.2%
脳梗塞(N=77)	35	16	1	0	23	2
	45.5%	20.8%	1.3%	0.0%	29.9%	2.6%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群その他のリハを要する状態の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力の低下及び日常生活能力の低下を来している患者(N=55)	27	11	1	1	14	1
	49.1%	20.0%	1.8%	1.8%	25.5%	1.8%
脳出血(N=17)	5	1	0	0	10	1
	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	58.8%	5.9%
その他(N=33)	11	14	1	0	7	0
	33.3%	42.4%	3.0%	0.0%	21.2%	0.0%

表 6.5-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限(166~180日)をもって終了					
	これ以上改善の見込みはない				見込みがある 身体機能の改善の	無回答
	生活の場で 状態の維持が 可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険 対象	介護保険 対象外	無回答		
合計(N=319)	16	32	3	2	7	1
	5.0%	10.0%	0.9%	0.6%	2.2%	0.3%
脳梗塞(N=145)	10	16	0	1	5	0
	6.9%	11.0%	0.0%	0.7%	3.4%	0.0%